

はにい

自分のことば

平成24年11月22日

—— 「ではまず、わかることを自分の言葉で書いてみて。」
清水先生はそう指示しました。

「ひとつのおもりは4gである。」

正伸さん（仮名）はプリントにそう書きました。1年生の数学です。

教材は「ばねの実験のデータ」。おもりを1kg、2kg、3kg、・・・と変えていくと、ばねの伸びは、4mm、8mm、12mm、・・・と変化していきます。

先生がまわってきて、正伸さんのプリントをのぞきました。

「そう、自信をもって書いてるね。」

個人で考えたあと、今度はグループで対話します。

—— 「はい、では、4人でお互いに書いた内容を紹介してみて。その中からいい表現だな、というのをホワイトボードに書いてみて。」と清水先生。

先ほどの正伸さんのグループの対話を聞いてみましょう。

「正伸くんの、4gっていうのは、どこの4？」

「ここの表のほら、これだよ。4。」

「あー、そこの意味は、表のここを見るとね、」

「え？あ！そうか、これはばねの伸びか！」

正伸さんは、自分の勘違いに気づきました。

隣のグループでは並んだ数の規則性が話題になっています。

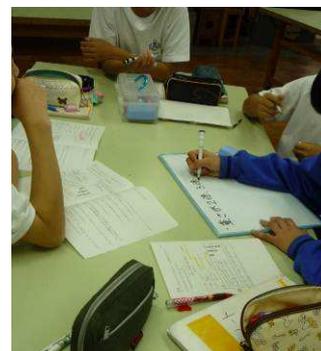
「伸びの長さを重さで割ると4になる。」

「それは、言葉で書かないで、÷を使って式で書いた方がわかりやすいんじゃない？」

対話の中で、それぞれの気づきが検討され、表現が工夫されていきます。

重さ (kg)	1	2	3	4	5
伸びの長さ (mm)	4	8	12	16	20

ひとつのおもりは4gである
1kgの重りにも1kgのばねを4x2と4x3 (4x2)
数に当て



さて、グループで話し合った後は、各グループの発表です。

—— 「じゃあまず、このグループ、発表してくれる？」

清水先生は、2番目の班に発表させました。

—— 「次は、今のと似てるこのグループ、発表してくれる？」



見るべき視点が明確になるように、教師が関連づけて、班を指定して発表させていく。

「えー、重さが2倍、3倍になると、伸びの長さも、ともなって2倍、3倍・・・となっています。」

—— 「うん、『ともなって』。いい言葉だねえ。」と清水先生。

子どもの表現を大切にしながら、大事な言葉に注目させる。この日々の繰り返しによって、子ども自身の言葉が創られて行くのでしょうか。

言葉は、こうして対話の中で磨かれていく。

その対話のためには、まず、自分の言葉で語る必要がある。

—— 「ではまず、自分の言葉で書いてみて。」

清水先生はそう指示しました。



かながわ元気な学校づくり通信 『はにいい』とは、
学校が元気になるように・・・

先生の仕事を受ける

学校に携わる大人たちがしていることを受ける

そして、もちろん子どもたちの育ちを受取る

そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合きましょう。

専用メールアドレス：inochi4027@pref.kanagawa.jp